

### Ⅲ 調査結果のまとめ

#### (1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

##### ① 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

幼稚園や保育所（園）などの「定期的な教育・保育事業」の利用状況（就学前児童：問12）は、「利用している」の割合が63.7%、「利用していない」の割合が36.1%となっています。その事業（就学前児童：問12-1）は、「幼稚園」の割合が46.7%と最も高く、次いで「認可保育所」の割合が33.9%、「幼稚園の預かり保育」の割合が21.1%となっています。

中学校区別にみると、すべての地区で「幼稚園」の利用が高くなっているものの、山手地区では「幼稚園」の利用が特に高く、精道地区及び潮見地区では「認可保育所」の割合が高くなっています。

現在、利用している教育・保育事業の実施場所（就学前児童：問12-4）については、「芦屋市内」の割合が78.5%、「芦屋市外」の割合が15.1%となっています。利用している教育・保育事業の実施場所別にみると、芦屋市外利用者の中で「幼稚園」の割合が高くなっています。

現在、利用している教育・保育事業の実施場所へ通園する主な手段（就学前児童：問12-5）は「徒歩」の割合が41.9%と最も高く、次いで「自転車」の割合が21.6%、「自動車」の割合が20.1%となっています。利用している教育・保育事業への通園手段別にみると、徒歩で通園している73.0%は「幼稚園」の利用者となっており、自転車で通園している71.7%は「認可保育所」の利用者となっています。また、自動車で通園している利用者で高いのは「認可保育所」と「認可外の保育施設」となっており、通園バスで通園している利用者では、「幼稚園」が大半を占めています。

平日に定期的に教育・保育事業を利用している理由（就学前児童：問12-6）については、「子どもの教育や発達のため」の割合が61.2%と最も高く、次いで「子育てをしている方が現在就労している」の割合が43.4%となっており、保護者の就労状況や子育てに対する考えを丁寧に把握した上で、保育所等ニーズを把握していく必要があることがわかります。

##### ② 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育事業として、定期的に利用したいと考える事業（就学前児童：問13）は、「幼稚園」の割合が64.5%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が47.4%、「認可保育所」の割合が38.6%となっています。

定期的な教育・保育事業の利用の有無別にみると、現在事業を利用していない人で、「幼稚園」を回答している割合が高くなっていることから、これから就園していく家庭において「幼稚園」のニーズが高くなっていることがわかります。また、年齢別にみると、0歳・1歳では「幼稚園」と「認可保育所」がそれぞれ約5割となっており、2歳以降では、「幼稚園」ニーズが高まり、3歳以上では、「幼稚園」が7割と高く、「認可保育所」は3割弱となっていることから、すべての年齢において「幼稚園」ニーズが高くなっていることも特徴となっています。

一方で、母親の就労形態別にみると、他の就労形態に比べ、フルタイムで特に「認可保育所」が高く、次いで、「認可外の保育施設」、「ベビーシッター」、「ファミリー・サポート・センター」が高くなっています。また、パート・アルバイト等で「幼稚園」が最も高く、次いで「幼稚園の

預かり保育」が高くなっており、全体傾向と比べ、「認定こども園」も高くなっています。これらのことから、適正な教育・保育ニーズを見込むためには、就労状況に応じ家庭の類型化が重要になってくることがわかります。

パートタイムの母親のフルタイムへの転換希望別にみると、認可保育所を希望している人のうち、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせた“フルタイムへの転換希望がある”と回答している人は、39.8%（35件／88件）と高くなっているものの、「実現できる見込みがある」の割合は、12.5%（11件／88件）と低くなっていることから、近年の就労環境が影響し、フルタイムを希望しても就労できない状況がうかがわれます。

未就労の母親の就労希望別にみると、「認可保育所」を希望している人で「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が37.2%（51件／137件）となっていることから、1年以内に保育所等を利用することになる潜在的なニーズがあることがわかります。

また、利用している定期的な教育・保育事業別にみると、「幼稚園」、「認可保育所」を現在利用している人は、利用希望も同一の施設を希望している割合が最も高くなっています。一方で、「認可外の保育施設」を利用している人は、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認可保育所」を希望している割合が高くなっており、希望している施設と現状の利用している施設の利用意向との乖離の現状がうかがわれます。

## （2）地域の子育て支援事業の利用状況について

呉川町の子育てセンターで実施している、つどいのひろば「むくむく」の利用状況（就学前児童：問14）は、「利用している」の割合が12.6%、「利用していない」の割合が85.9%となっており、年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「利用している」の割合が低くなっています。

中学校区別にみると、山手地区で「利用していない」の割合が高く、89.9%（420件／467件）となっており、現在の立地場所が利用状況に顕著に影響していることがうかがわれます。

今は利用していないが、できれば今後利用したい、または、利用日数を増やしたいと思うか（就学前児童：問15）については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が61.4%と最も高く潜在的なニーズの高さがわかります。

## （3）子どもの病気の際の対応について

この1年間に、お子さんが病気やけがで通常の事業が利用できなかったことはあるか（就学前児童：問19）について、「あった」の割合が68.1%、「なかった」の割合が23.7%となっており、年齢別にみると、1歳で「あった」の割合が高く、89.3%（67件／75件）となっています。

お子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法（就学前児童：問19-1）は、「母親が休んだ」の割合が55.4%と最も高く、次いで「母親または父親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が34.7%、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が30.3%となっています。

「母親が休んだ」または「父親が休んだ」のどちらかに○をつけた方で、その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思ったか（就学前児童：問19-2）について、

「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」の割合が48.8%、「利用したいとは思わない」の割合が48.5%となっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムで「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」の割合が高く、53.8%（113件／210件）となっており、支援してすべきニーズが浮き彫りになっています。

なお、小学生児童調査（小学生児童：問13-2）で、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」人の割合が18.8%となっており、就学前児童に比べ割合は低くなっています。

#### （4）不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業はあるか（就学前児童：問20）について、「利用していない」の割合が60.0%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が18.5%となっています。また、利用希望（就学前児童：問21）については、「利用したい」の割合が53.3%、「利用する必要はない」の割合が38.9%となっています。母親の就労状況別にみると、未就労で「利用したい」の割合が高く、58.0%（440件／759件）となっており、その目的については「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など、リフレッシュ目的）」の割合が72.7%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」の割合が64.5%、「不定期の就労」の割合が27.2%となっています。

この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気等）により、お子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはあったか（就学前児童：問22）については、「あった」の割合が19.4%とわずかで、その対処方法も「親族・知人にみてもらった」の割合が87.5%と最も高くなっていることから、公的な保育サービスに依存せず親族や知人に預けることで対応していることがうかがわれます。

なお、小学生児童調査（小学生児童：問16）で、「あった」の割合が18.2%となっており、就学前児童に比べ割合はやや低くなっています。

#### （5）放課後の過ごし方について

##### ① 小学校低学年（1～3年生）になったときの放課後の過ごし方

小学校低学年（1～3年生）になったときの放課後の過ごし方について、どのような場所で過ごさせたいと思うか（就学前児童：問23、小学生児童：問17）については、就学前児童調査（5歳児対象）では、「自宅」の割合が75.2%と最も高く、次いで「習い事」の割合が70.4%、「留守家庭児童会（学童保育）」の割合が27.4%となっています。

一方で、小学生児童調査では、「自宅」の割合が67.5%と最も高く、次いで「習い事」の割合が66.6%、「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が29.2%となっており、就学前児童調査（5歳児対象）との乖離があることがわかります。

就学前児童調査（5歳児対象）で中学校区別にみると、精道地区、潮見地区で「留守家庭児童会（学童保育）」の割合が高く、30%を超えており、小学生児童調査からも地域的なニーズの裏付けがされています。

##### ② 小学校高学年（4～6年生）になったときの放課後の過ごし方

小学校高学年（4～6年生）になったときの放課後の過ごし方について、どのような場所で過ごさせたいと思うか（就学前児童：問24、小学生児童：問18）については、就学前児童（5歳

児対象)では、「習い事」の割合が83.9%と最も高く、次いで「自宅」の割合が78.7%、「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が23.9%となっています。

一方で、小学生児童では、「習い事」の割合が70.0%と最も高く、次いで「自宅」の割合が64.6%、「祖父母宅や友人・知人宅」の割合が24.2%となっています。

就学前児童調査(5歳児対象)で中学校区別にみると、精道地区、潮見地区で「留守家庭児童会(学童保育)」の割合が高くなっています。小学生児童調査で年齢別にみると、小学2年生で「留守家庭児童会(学童保育)」の割合が高く、10.5%(13件/124件)となっています。中学校区別にみると、潮見地区で割合が高く、地域的なニーズの裏付けがされています。

## (6) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組みや、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがあることを知っているか(就学前児童:問26)について、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」の割合が34.3%と最も高いものの、全体的な割合として、制度の周知が必要である状況です。

また、お子さんが生まれた時、育児休業を取得したか(就学前児童:問27)については、母親で「取得した(取得中である)」の割合が25.8%となっており、取得していない理由については、「子育てや家事に専念するため退職した」の割合が41.2%と突出しています。

一方で、父親は、「取得していない」の割合が88.2%と最も高くなっており、取得していない理由については、「仕事が忙しかった」「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」「制度を利用する必要がなかった」の多様化した理由で取得できていないことから、企業も含めた仕事と子育ての両立支援の環境が必要であることがわかります。

なお、小学生児童調査(小学生児童:問20)で、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」の割合が48.2%となっており、就学前児童に比べ、高い数値になっています。一方で、育児休業を取得した割合(小学生児童:問21)も、就学前児童に比べ、父親・母親ともに低くなっていることから、育児休業制度が浸透し、利用が進んでいることがわかります。

## (7) 芦屋市の今後の子育て施策について

### ① 子育ての楽しさ

ご自身にとって子育てを楽しんでいると感じることが多いと思うか(就学前児童:問28,小学生児童:問22)については、就学前児童調査で「楽しいと感じることが多い」の割合が70.3%と最も高く、次いで「楽しいと感じることがとつらいと感じることが同じくらい」の割合が24.3%となっています。また、小学生児童調査においても同様な傾向となっていることから、就学前児童・小学生児童ともに健全な状況がうかがえます。

### ② 子育てに関することで日常悩んでいること、あるいは気になること

子育てに関して、日常悩んでいること、あるいは気になること(就学前児童:問29,小学生児童:問23)について、就学前児童調査の子どもに関することでは、「子どものしつけに関するこ

と」の割合が56.0%と最も高く、次いで「子どもの教育・保育に関すること」の割合が40.0%、「食事や栄養に関すること」の割合が32.9%となっています。子育てを楽しんでいる状況別でみると、つらいと感じることの方が多く、「子どものしつけに関すること」の割合が高くなっていることから、自分の子育て方法に自信が持てず、子どものしつけに関して悩んでいることが、子育てを楽しんでできていない現状となっていることがうかがわれます。

また、自身に関することでは、「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」の割合が36.6%と最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きいこと」の割合が28.2%、「子育てのストレスなどから子どもにきつくあたってしまうこと」の割合が26.8%となっています。母親の就労状況別にみると、フルタイム、未就労で「子育てによる身体の疲れが大きいこと」の割合が高くなっていることや、子育てを楽しんでいる状況別にみると、「つらいと感じることの方が多く」人で理解や協力を得られない人の割合が高くなっていることから、母親が置かれている立場によって、自身に関することでの悩みの原因となっていることがうかがわれます。

なお、小学生児童調査の子どもに関することについては、ほぼ同様の傾向となっているものの、自身に関することでは、「特になし」が最も高くなっており、子育てによる自身の負担感が子どもの年齢とともに低くなっていることがわかります。

### ③ 芦屋市における子育ての環境や支援への満足度

芦屋市における子育ての環境や支援への満足度（就学前児童：問30、小学生児童：問24）（1：満足度が低い，5：満足度が高い）については、「3」の割合が40.5%と最も高く、次いで「2」の割合が26.1%、「4」の割合が16.7%となっており、平均的な回答が得られています。

なお、小学生児童調査においても、ほぼ同様な傾向となっています。

### ④ 芦屋市の子育て支援施策に期待すること・重要なこと

芦屋市の子育て支援施策に期待すること・重要なこと（就学前児童：問31、小学生児童：問25）については、就学前児童調査では、「地域における子どもの居場所の充実」の割合が39.2%と最も高く、次いで「教育・保育サービスの費用負担や学費など経済的支援の充実」の割合が38.4%、「子どもが主体的に行動できるよう学校教育・保育環境の充実」の割合が34.9%となっています。母親の就労状況別にみると、未就労で「子育てに関する相談、情報提供の充実」の割合が高く、フルタイムで「仕事と子育てが両立できるよう就学前施設の箇所数や内容の充実」の割合が高くなっています。

なお、小学生児童調査においても、ほぼ同様な傾向となっています。